ミニシンポジウム

海洋生物の回遊環境履歴解析^{*1}坂本 亘^{*2} (京都大学農学部), 内藤靖彦^{*3} (国立極地研究所),塚本勝巳^{*4} (東京大学海洋研究所)

はじめに

近年マイクロエレクトロニクスや微量分析法の発展にともない、海洋生物の研究手法にもこれらの成果が取り入れられるようになってきた。マイクロエレクトロニクスの応用によって、1990年頃から生物装着型記録計が実用化され始め、魚類はもとより、海洋におけるは虫類、は乳類、鳥類の遊泳と潜水行動あるいは水温と体温との関係が研究され始めた。また、EPMAやPIXEなどの非破壊微量元素分析法が魚類の耳石内微量元素分析やほかの海洋生物の硬組織解析に応用され、さらにその結果を用いて個体の環境履歴解析が試みられている。本シンポジウムでは、これまでの主な研究成果をまとめ、今後の発展を期して企画したものである。

海洋生物の回遊環境履歴解析

企画責任者 坂本 亘 (京大農), 内藤靖彦 (極地研),
塚本勝巳 (東大海洋研)

開会の挨拶 坂本 亘 (京大農)

I. 負荷型記録標識による解析

座長 坂本 亘 (京大農)

1. マイクロデータロガーによる自然環境下における
ヒラメの行動解析

梨田一也 (日水研)
内藤靖彦 (極地研)
中野和民 (東大海洋研)
岩尾 香 (東大海洋研)

2. 海洋におけるは虫類・は乳類・鳥類

佐藤克文 (極地研)

II. 無負荷型記録標識による解析

座長 桑原昭彦 (京都海洋セ)

1. マダイ稚魚の耳石・鱗による環境履歴

荒井修亮 (京大農)

2. サケ科魚類の母川回帰機構: 視覚と嗅覚の役割

上田 宏 (北大水), 埴山雅秀 (さけますふ化場)
栗原堅三 (北大薬), 山内皓平 (北大水)

III. 水産資源解析への応用

座長 坂本 亘 (京大農)

1. 水産資源解析における回遊環境情報の意義

松宮義晴 (東大海洋研)

開会の挨拶

坂本 亘 (京大農)

^{*1} Analyses of Long Term Environmental Background of Marine Animals.

^{*2} Wataru Sakamoto (Faculty of Agriculture, Kyoto University, Kyoto, 606).

^{*3} Yasuhiko Naito (National Institute of Polar Research, Itabashi, Tokyo 173, Japan).

^{*4} Katsumi Tsukamoto (Ocean Research Institute, The University of Tokyo, Tokyo 164, Japan).